(3)見回りと給餌を行う

森林施業と連動した捕獲実施

調査や馴化作業は、 継続して実施する必要 がないので、施業実施 前の下見、測量、現地 説明などを実施すると きを利用して行うことが 望ましい。

施業実施前

調

査

. 馴

化期間

捕獲期間

事前調査 1日

> 馴化(給餌) 2週間以上(週2回給餌以上)

馴化(ワナ設置・外側給餌) 2週間以上(2回給餌以上)

ワナは捕獲翌日の間 に止めさし作業を確実 に実施できる日だけ稼 働するので、継続して 現場に通える施業実 施期間中などに行う。

施業実施中

外側給餌・(移設) 安定して採食するまで

内側給餌 安定して採食するまで

ワナ稼働

捕獲

林業事業体が行う業務の中に捕獲作業(被害対策)を組み込むと効率的に実施できます

見回り 止めさし 埋設

始業

通常業務

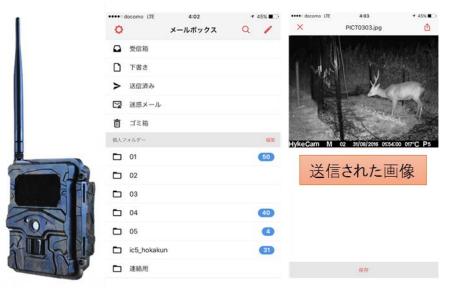
給餌 見回り

終業

(3)見回りと給餌を行う

ワナ監視作業の省力化

仕掛け線を利用したワナ捕獲では、毎日確認に行く必要がありますが、撮影された画像をメール送信するセンサーカメラを利用すると、ワナの稼働状況を遠隔監視できるので監視作業を省力化することができます。また、捕獲が成功した場合は、送信された画像から捕獲された個体の性別・年齢が確認できるので、事前に止めさしの方法や作業者の人数などを判断し準備することで安全な対応が可能になります。





ICTを利用した捕獲技術も開発されています。この方法では、ワナの近くに設置したライブカメラの映像をインターネット上で確認しながら、遠隔操作で仕掛けを作動させることができます。ワナ内の個体や周辺の状況を確認しながら捕獲実施の判断ができるので、選択的な捕獲が可能になります。





インターネット上の ライブカメラ映像

囲いワナ

(4)シカを捕獲する

囲いワナでシカを捕獲した後は、止めさし作業が必要になります。

ワナの中にいるシカは、まだ自由に動ける状態ですので、作業を実施するときは安全確保を 最優先にしてください。特に、角の大きなオスが捕獲されている場合は注意が必要です。





電気止めさし器は、流血することがなく、経験が浅くても確実に作業ができる安全な止めさし 方法です。ただし、至近距離での作業が必要になるため、確実に保定をしてから行います。





この囲いワナでは、ネットの裾が ポケット状になるため保定しやすい

錯誤捕獲に注意!

ワナ捕獲の場合、捕獲する個体を選択 することができません。そのため、対象地 にクマやカモシカが生息している場合は、 錯誤捕獲に注意する必要があります。

囲いワナ捕獲の場合、上部が開放になっているのでクマの錯誤捕獲は発生しません。一方、カモシカはシカと食べる物や使う場所も似ていることが多いので、センサーカメラに頻繁にカモシカが写る場合は場所の移動も検討します。



万が一、錯誤捕獲が発生してしまった場合は、速やかに囲いワナの入口を開けて放獣します。

(5)捕獲したシカを処理する

捕獲したシカは、回収運搬して適切に埋設処理する必要があります。 地域によっては、焼却場に搬入して焼却処分になる場合もありますので、 管轄の市町村役場で確認しましょう。

回収運搬作業

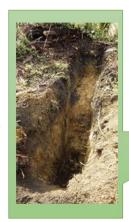


車で運ぶ Oとでも楽 ×林道がないと入れない

場合も多いので、人力での 運搬が必要になることがあります。 その場合そりなどの道具を使うと便利です。

埋設作業

事前に重機を使って埋設穴 を準備してます。場所は捕獲 地点からある程度離れていて、 重機が入れる場所を選びます。 埋設に際しては、その場所の 土地所有者から事前に許可を もらう必要があります。





捕獲個体の資源利用

シカの捕獲個体を有効利用する取組が 各地で進められています。食肉利用する 場合は、衛生管理ガイドライン等に基づい て整備された施設で解体処理する必要が あります。また、捕獲後に施設へ搬入する 時間にも制限があります。対象地の近くに 処理施設があり、運搬が可能な場合は、 資源利用について検討してみましょう。



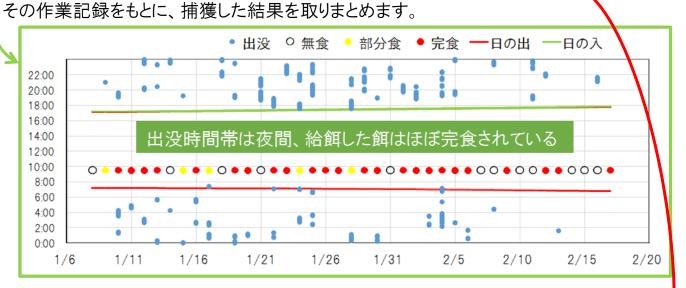


2. 実施手順

3)結果の評価(Check)

(1)捕獲した結果を取りまとめる

捕獲実施中は、作業内容(<u>給餌した日・残食量</u>・追加した餌の量など)、センサーカメラによるモニタリング(<u>出没時間帯</u>、同時に出没する頭数など)、<u>捕獲結果</u>(捕獲日・捕獲場所・捕獲の成否・捕獲個体の性別と齢級など)を記録しておきます。



10~1月の捕獲が少ない、性比はほぼ半々、幼獣率が高い

I Is wife	I but in an		-: !-	1.1 - 1			
捕獲日	捕獲場所	ワナ作動	監視	性別	成∙幼	頭数	備考
H27.10.6	t1	仕掛け線	見回り	メス	成	1	
H27.10.6	t1	仕掛け線	見回り	メス	幼	1	
H27.12.16	t2	仕掛け線	メール画像	オス	成	0	ロープ上端切れ
H28.1.9	t3	仕掛け線	メール画像	メス	成	1	
H28.1.9	t3	仕掛け線	メール画像	メス	幼	1	
H28.1.11	t2			オス	幼	0	ネット切れ
H28.2.9	t3	仕掛け線	メール画像	オス	成	1	
H28.2.15	t2	仕掛け線	メール画像	メス	幼	1	
H28.2.20	t3	遠隔操作	ライブカメラ	メス	幼	1	
H28.3.23	t3	遠隔操作	ライブカメラ	オス	成	1	
H28.3.23	t4	仕掛け線	メール画像	オス	幼	1	
H28.5.22	t3	遠隔操作	ライブカメラ	オス	成	1	
H28.6.8	t4			オス	幼	0	支柱間スペーサー外れ
H28.6.11	t2	仕掛け線	メール画像	オス	成	1	
H28.6.13	t5	遠隔操作	ライブカメラ	オス	成	1	T
H28.6.21	t2	仕掛け線	メール画像	メス	幼	1	
H28.9.22	t4	仕掛け線	メール画像	オス	成	1	
H28.10.20	t2	仕掛け線	メール画像	オス	幼	1	

【重要!】捕獲が失敗した場合、考えられる原因を明記しておく

(2)計画と結果を比較する

取りまとめた結果と当初の計画を比較します。下記は、初年度の結果について検討した事例です。

当	月	作業内容			
初	4	<u>-</u> -			
か 計	5	事前準備			
画	6	事前調査			
	7	1			
	8	計画作成			
	9	↓			
	10	捕獲開始			
	11	†			
	12	餌資源の少ない			
	1	冬季に集中的に ・ 捕獲を実施する・			
	2	開発と大ルリる			
	3	↓			

実	月	捕獲頭数
際	4	_
の結	5	3
果	6	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -
	7	4 <u></u>
	8	-
	9	<u> </u>
	10	2頭
	11	0頭
	12	0頭 捕獲できず
	1	2頭
	2	3頭
	3	2頭

当初の計画と違う部分について、原因を検討します。



シカの性別と齢級の判別

シカの個体数を減らすためには、メスの成獣を捕獲することが有効です。捕獲方法によっては、選択的に捕獲できないこともありますが、捕獲した個体の性別と齢級を記録して計画の改善に役立てましょう。





2. 実施手順

4)計画の改善(Action)

(1)方法や体制を見直して次の計画に組み込む

捕獲方法の改善

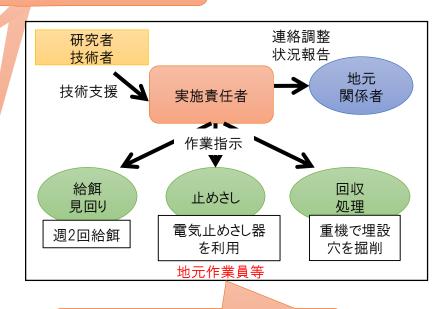
捕獲に失敗したときに考えられた 原因に基づいて方法を改善する

			11 9 9 9 9 9 9 9		//J/ E	3,-2	20 0万公已成日)
捕獲日	捕獲場所	图图	Marine 1		茂・幼	頭数	備考
H27.10.6	t1				成	1	
H27.10.6	t1				幼	1	
H27.12.16	t2	MANA			成	0	ロープ上端切れ
H28.1.9	t3	TO THE			成		
H28.1.9	t3		在上海上被制		幼	1	
H28.1.11	t2				幼	0	ネット切れ
H28.2.9	t3	ykeCam M 1工注すり 旅	16/12/2015 14:56:46	012°C P	成	1	
H28.2.15	t2	仕掛け線	メール画像	メス	幼	1	
H28.2.20	t3	遠隔操作	ライブカメラ	メス	幼	1	
H28.3.23	t3	1.1	スペーサ-	ーを	ţ	1	
H28.3.23	t4		自在クラン	プで固定	定 りへ	1	
H28.5.22	t3		WE WAS TO SERVICE THE SERVICE	V ANDA	t	1	
H28.6.8	t4				b b	0	支柱間スペーサー外れ
H28.6.11	t2				Ž Ž	1	
H28.6.13	t5			6	文	1	
H28.6.21	t2				力	1	
H28.9.22	t4		The I		龙	1	
H28.10.20	t2				b b	1	
		HykeCam M	08/06/2016 06:00:0	1 01	9°C P5		

出入口のロープを改良

体制の改善

捕獲結果やカメラデータから 捕獲実施時期を変更する



対象地で植栽をしている林業事業 体が作業を担当することも可能

3. 参考資料

1)囲いワナの作り方

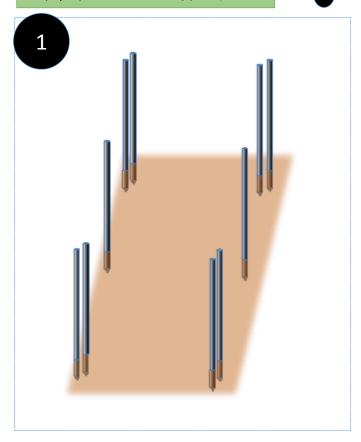
共通部分



ネット引き上げ式



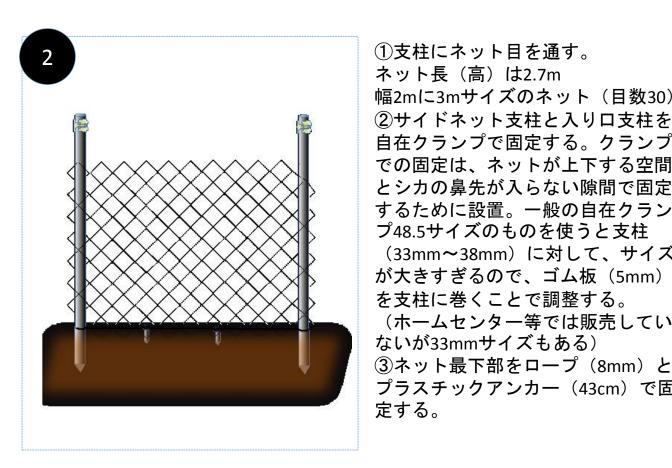
ネット落下式



支柱を設置する。使用するのは林業 用防護柵に使用するFRP製の支柱で径 33mmから38mm、一体型と分割型が あるが33mm分割型が最適。

- ①支柱高200cm~270cm。
- ②支柱は50cm埋設。
- ③サイドは支柱間隔2mで全 4m
- ④入り口は2m

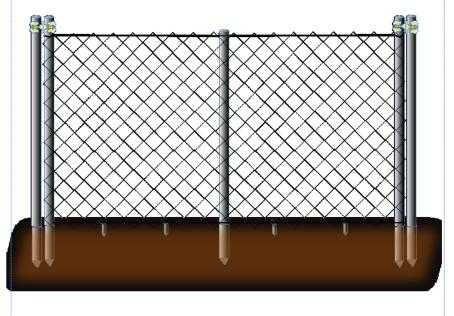
このサイズは2頭くらいの捕獲を目 的としている。これ以上小さいと入 り口が閉まる前に逃走の危険があり、 これ以上大きいと助走可能な空間が できるので、上部からの逃走リスク が高まる。



①支柱にネット目を通す。 ネット長(高)は2.7m 幅2mに3mサイズのネット(目数30)。 ②サイドネット支柱と入り口支柱を 自在クランプで固定する。クランプ での固定は、ネットが上下する空間 とシカの鼻先が入らない隙間で固定 するために設置。一般の自在クラン プ48.5サイズのものを使うと支柱 (33mm~38mm) に対して、サイズ が大きすぎるので、ゴム板(5mm) を支柱に巻くことで調整する。 (ホームセンター等では販売してい ないが33mmサイズもある)

プラスチックアンカー(43cm)で固

3



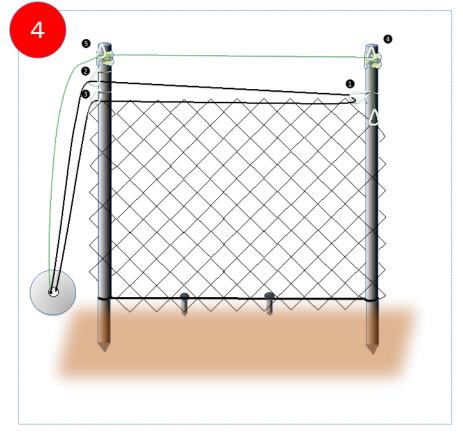
側面(ネット) 引き上げ型・落下型共通

①側面は4mサイズ 目合100mm(目数50)。 中央支柱までは25。長さ 4mに対して150%

(6m) のネットを張る ことが必要だが、長さを 計測するよりは、目合数 で決定したほうが仕様が 安定する。

②ネットと端支柱との連結は支柱にネット目を通すことでおこなう

③ネット裾部をロープと アンカーで固定する。



- ①カラビナを設置する
- 0~6

②ネット引き上げ用ロー プ (8mm~10mm) を

- 2→1→ネット最上部→3→ウェイトの順に通す。
- ③ネット引き上げ補助線 (細いロープ)を
- **4**→**5**→ウェイトの順に通す。

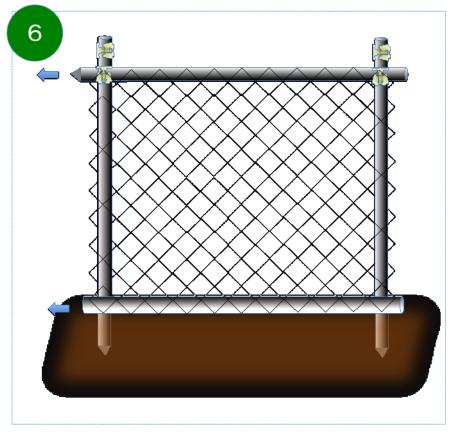
④ネットが最上部の時に ウェイト(10kgプレート)が地面についている 状態に合わせるように ロープ長を調整して固定 する。

※入り口稼働部の作成

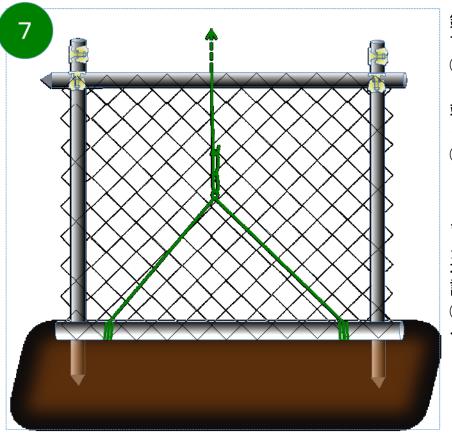
カラビナにロープを順番通り通して作成するが、意外と重要なのが補助線の存在である。ロープの通し方から、引き上げ方向とは違う方向に力がかかり、スムーズな動きを阻害する時があるが、補助線でネットを支柱方向(鉛直方向)に引き上げることでスムーズな動きを確保する。また、地形によるとカラビナからウェイトの距離が少なくて十分なネット高さが確保できない場合はウェイト落下部分の地面を掘り下げることが必要。



- ①カラビナ**①~②**を設置する。
- ②仕掛け3を設置する。
- ⑤仕掛け線をウェイト→1→2→3という順で通す。
- ⑥もう片側も同様。



- ①最上部ネット目に支柱 (その他支柱と同じ素 材)を通して、クランは引 で固定する。落下型はが を通して、落下型は が固定する。この を上げ型とは逆に なった がることな となった がることな される。 であることな である。 であることな である。
- ②最下部ネット目に鋼管 (通常48.5mm鋼管でいいが、作動(落下)させ てみて動きが悪い(落下 速度が遅かったり、引っ かかる)時はウェイトを 追加する。



鋼管に引き上げ線を設定 する。

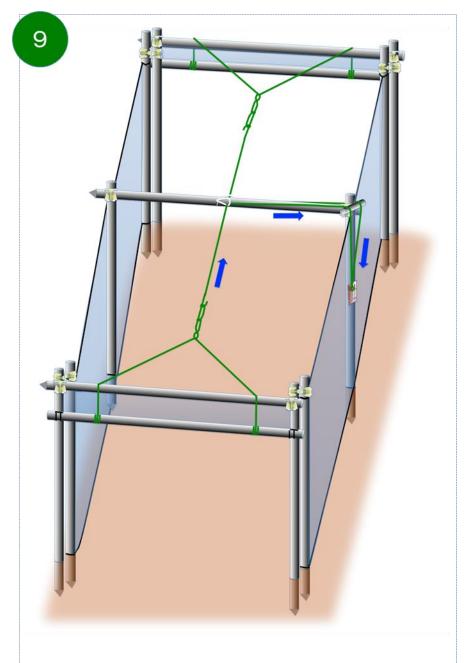
- ①鋼管にロープを3角形 (高さ約100cm)に、先 端にひと結びを作って形 を固定する。
- ②ひと結びに自在結び (ここで長さを調整する ことになるので調整が容 易な結び方ならなんでも 良い)により、仕掛けに 通すロープ(6 mm)を 設置する。
- ③中間支柱のカラビナへ。



入り口支柱と鋼管の固定

色々なやりかたがあるの で、その一例である。

- ①入り口支柱とを輪を 作ってスムーズに落下を する。親指1本分くらい の隙間を作り、支柱に ひっかかったりしないよ うにする。途中で締まっ たりしないようにする。
- ②鋼管との固定 衝撃があってもゆるみに くいように、「巻き結び (とっくり結び)」で固 定する。



①中間支柱のカラビナから仕掛けへロープ通していく。

②鋼にとて金があ落さるの大がんれ、にの告げるから一。時はするのと理がいくさ解ず、のいのでははで式での方のははがであると理期とががいくさ解ず、のいの数にはで式でがいくさ解が、のいのがのがある。

最近はセンサーによる ものも増えてきたが、 まだこの線に触れると 仕掛けが稼働する「蹴 り糸」方式が一般的で ある。

・高さ・・・色々な意 見があるが、まず50cm で様子を見る。カメラ で確認しながら調整す る。

・張り方・・ゆるく はったほうがいいとい う意見もあるが、少々 きつめが無難。



落下型ネットは引き上げた時のネット処理が課題である。写真は現場関係者 達の工夫例である。

・ロープ利用例

鋼管をあげるロープと同様のラインで、ネットをたくし上げるロープを設置する。落下時には鋼管引き上げロープと同時に落下する。

• 番線利用例

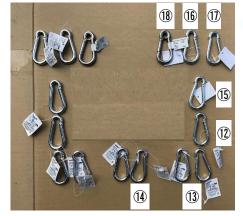
鋼管に番線を逆V字型に取り付け、その間にネットを挟む。落下時には番線にからネットが離脱する。

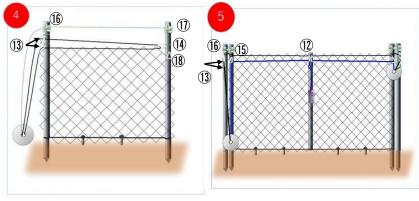
2-1)資材一覧(引き上げ式)

 ① ネット ② 支柱 ② 大柱 ② クスカー ④ 重り ⑤ PEロープ ⑥ Mm、強化タイプ、ネット上下部 ⑥ PEロープ ⑥ Mm、強化タイプ、控え用 ② 付 ⑥ PEロープ ⑥ Mm、強化タイプ、控え用 ② 付 ⑥ 自在クランプ ② 支柱径のサイズ ⑤ しかけ ⑥ 仕掛けロープ ⑥ 仕掛けロープ ② 大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大					
① ネット 2.6m、10cm網目、ステンレス入り 16 で 2 支柱			ネット引き上げ式		
② 支柱 ゆ33mm、2.3m、分離タイプ 10 2 2 4 40cm、返しあり 10 2 4 重り 10kg 2 4 6 mm、強化タイプ、ネット上下部 30 1 6 PEロープ 6 mm、強化タイプ、控え用 20 7 控え固定金具 4 4 6 8 自在クランプ 支柱径のサイズ 4 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	NO	資材名	規格	数量	単位
③ アンカー 40cm、返しあり 10 2 4 重り 10kg 2 (1	ネット	2.6m、10cm網目、ステンレス入り	16	m
 ④ 重り 10kg 2 (6) PEロープ 6mm、強化タイプ、ネット上下部 30 で 6mm、強化タイプ、控え用 20 で 20	2	支柱	φ33mm、2.3m、分離タイプ	10	本
 ⑤ PEロープ 6mm、強化タイプ、ネット上下部 30 で 6mm、強化タイプ、控え用 20 で 控え固定金具 4 名 ⑧ 自在クランプ 支柱径のサイズ 4 名 ⑨ しかけ 1 イ イ ⑩ 仕掛けロープ PE製、3mm、仕掛け↔重り 5 で 1 イ ⑪ カラビナ 中7 仕掛け支柱 2 イ ⑪ カラビナ 中7 入口支柱 ネット・・・ 車り 4 イ ⑪ カラビナ 中7 入口支柱 オット・・ 車り 2 イ ⑪ カラビナ カラビナ カラビナ カラビナ カラビナ カラビナ カラビナ カラビナ	3	アンカー	40cm、返しあり	10	本
 ⑥ PEロープ 6mm、強化タイプ、控え用 20 性え固定金具 8 自在クランプ 2枚径のサイズ 4 付 9 しかけ 1 付 1 仕掛けロープ 1 上入口ネット誘導ロープ 1 かラビナ 4 付 4 付 5 に 6 カラビナ 7 入口支柱 オット→重り 8 カラビナ 9 入口支柱 は掛け→重り 1 イ 6 カラビナ 6 カラビナ 7 入口支柱 誘導フック→重り 7 入口支柱 誘導フック→重り 8 カラビナ 9 オット誘導用フック 1 付 2 イ 6 耐候性、30mm、100本入り 1 有 2 イ 3 ステンレス線 	4	重り	10kg	2	個
 ⑦ 控え固定金具 8 自在クランプ 2 枝径のサイズ 9 しかけ 1 付 1 仕掛けロープ 1 仕掛け立一プ 1 日表し、3mm、仕掛け ● 重り 1 日本の本外・誘導ロープ 1 日本の本外・誘導ロープ 2 日本の本の・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5	PEロープ	6mm、強化タイプ、ネット上下部	30	m
 8 自在クランプ 支柱径のサイズ 4 イ ⑨ しかけ ⑪ 仕掛けロープ □ BE製、3mm、仕掛け↔重り □ カラビナ Φ7 仕掛け支柱 ① カラビナ Φ7 入口支柱 ネット↔重り Φ7 入口奥支柱 ネット↔重り Φ7 入口支柱 仕掛け↔重り Φ7 入口支柱 誘導フック↔重り Φ7 入口支柱 誘導フック↔重り Φ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り Φ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り Φ7 ネット誘導用フック Φ7 ネット誘導用フック Φ7 ステンレス線 	6	PEロープ	6mm、強化タイプ、控え用	20	m
 ① しかけ ① 仕掛けロープ ○ 日製、3mm、仕掛け⇔重り ○ 日報、3mm、仕掛け⇔重り ○ 日報、5mm、ネット端部⇔重り ○ カラビナ ○ カアンレス線 	7	控え固定金具		4	個
 ① 仕掛けロープ ○ 日製、3mm、仕掛け⇔重り ○ 日本ット誘導ロープ ○ 日製、6mm、ネット端部↔重り ○ カラビナ ○ カラド誘導用フック ○ イカア ネット誘導用フック ○ イカア ネット誘導用フック ○ イト 耐候性、30mm、100本入り ○ ステンレス線 	8	自在クランプ	支柱径のサイズ	4	個
 ① 出入口ネット誘導ロープ PE製、6mm、ネット端部→重り 5 での かっピナ ゆ7 仕掛け支柱 2 付の かっピナ ゆ7 入口支柱 ネット→重り 4 付の かっピナ ゆ7 入口支柱 オット→重り 2 付の かっピナ ゆ7 入口支柱 団が カラビナ ゆ7 入口支柱 誘導フック→重り 2 付の カラビナ ゆ7 入口支柱 誘導フック→重り 2 付の カラビナ ゆ7 入口奥支柱 誘導フック→重り 2 付の カラビナ ゆ7 ネット誘導用フック 2 付の お束バンド 耐候性、30mm、100本入り 1 付の ステンレス線 	9	しかけ		1	個
 ① カラビナ ゆ7 仕掛け支柱 ① カラビナ ゆ7 入口支柱 ネット↔重り ① カラビナ ゆ7 入口奥支柱 ネット↔重り ② イ ③ カラビナ ゆ7 入口支柱 仕掛け↔重り ② イ ⑥ カラビナ ゆ7 入口支柱 誘導フック↔重り ② カラビナ ゆ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り ② イ ② カラビナ ゆ7 ネット誘導用フック ② イ ② ステンレス線 	10	仕掛けロープ	PE製、3mm、仕掛け↔重り	5	m
(1) カラビナ	11)	出入ロネット誘導ロープ	PE製、6mm、ネット端部↔重り	5	m
(1) カラビナ	12	カラビナ	φ7 仕掛け支柱	2	個
(5) カラビナ	13	カラビナ	φ7 入口支柱 ネット↔重り	4	個
 (b) カラビナ φ7 入口支柱 誘導フック↔重り 2 イ (f) カラビナ φ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り 2 イ (l) カラビナ φ7 ネット誘導用フック 2 イ (l) 結束バンド 耐候性、30mm、100本入り 1 イ (2) ステンレス線 1 イ 	14)	カラビナ	φ7 入口奥支柱 ネット↔重り	2	個
 ① カラビナ φ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り 2 イ ① カラビナ φ7 ネット誘導用フック 2 イ ① 結束バンド 耐候性、30mm、100本入り 1 イ ② ステンレス線 1 オ 	15)	カラビナ	φ7 入口支柱 仕掛け↔重り	2	個
® カラビナ φ7 ネット誘導用フック 2 イ⑨ 結束バンド 耐候性、30mm、100本入り 1 イ② ステンレス線 1 キ	16	カラビナ	φ7 入口支柱 誘導フック↔重り	2	個
(19)結束バンド耐候性、30mm、100本入り1イ(20)ステンレス線14	17)	カラビナ	φ7 入口奥支柱 誘導フック↔重り	2	個
② ステンレス線 1	18)	カラビナ	φ7 ネット誘導用フック	2	個
	19	結束バンド	耐候性、30mm、100本入り	1	個
	20	ステンレス線		1	巻
	21)	ビニルテープ		1	巻







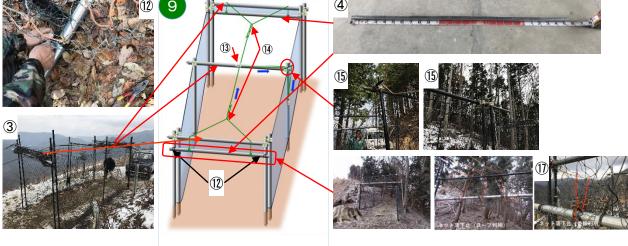


2-2)資材一覧(落とし式)

			英口 士		
NO	次++力	+⊟+⁄⁄2	落とし式	**- =	出仕
NO	資材名	規格	401 CL	数量	単位
1	ネット		m網目、ステンレス入り	16	m
2	支柱		2.3m、分離タイプ	10	本
3	支柱		②と同等の強度)	3	本
4	単管パイプ	-	、2.4mm、2.5m、6.6kg、出入口	2	個
5	アンカー	40cm、返		10	本
6	PEロープ	6mm、強·	化タイプ、ネット上下部	30	m
7	PEロープ	6mm、強化	ヒタイプ、控え用	20	m
8	控え固定金具			4	個
9	自在クランプ	支柱径の-	サイズ	10	個
10	しかけ			1	個
11	仕掛けロープ	PE製、3mr	m、仕掛け↔単管パイプ	7	m
12	単管パイプ結束ロープ	PE製、3mr	n	2	m
13	カラビナ	φ7 横架(·	ナ中心支柱	2	個
14)	カラビナ	Φ7 仕掛(ナ誘導ロープ単管パイプ側	2	個
		しかけ上端	端の支柱に固定し、しかけロープが		
15)	パイプ	ネット上端	を滑るようにする	0.5	m
16)	結束バンド	耐候性、3	0mm、100本入り	1	個
17)	番線	出入ロネッ	ット固定用	1	巻
18	ステンレス線			1	巻
19	ビニルテープ			1	巻
		FILE	and the state of t		12







3. 参考資料

2)シカの痕跡の見つけ方

シカがよく使う場所は、季節や人の立ち入り頻度などの影響を受けます。 そのため、捕獲を実施する前にシカの痕跡をよく観察しましょう。

(1)広い視点

①伐採後の場合

伐採後、最初の成長期(4月~10月)に植物の再生力は小さいですが、2回目の成長期には草本や木本植物など多様な種が再生し始めます。シカが高密度であれば、再生した植物を食べ尽くし、シカが嫌いな植物が残ります。伐採後、2回目の成長期以降となっているにもかかわらず、木本植物がみられずシカが嫌いな植物が優占している伐採地はシカが高い頻度で利用している能性が高いと判断できます。

②森林内(伐採前)の場合

シカが高い頻度で利用する森林内にはディアラインが形成されます。シカの口が届く 範囲内のシカが好む植物を食べつくしてしまうため、木本の葉が残っている層と消失した 層の境界ができるからです。

(2)狭い視点

①獣道、シカ道

大型野生動物(シカ、カモシカ、イノシシ)が高い頻度で同じ場所を通ると、踏み固められて土壌表面の草本が消失します。これが道のように続いているとシカなどが頻繁に通っていると考えられます。

2糞

シカ道ができている場所の周辺を探すと、シカの糞を見つけることができます。シカの糞はアーモンドチョコぐらいの大きさと形をしていて、糞の表面が乾いていると古く、湿って艶があると新しいことを意味します。シカとカモシカの糞は形が似ていて区別しにくいので注意が必要です。

③食痕

シカは前歯がないので、舌で巻き込んだ植物を引きちぎって食べます。そのため、草本や木本の葉に食べられた痕跡は、引きちぎられてささくれだった状態になります。食痕が新しいほど、シカが高い頻度で利用していることを意味します。

④皮剥ぎ

シカは、樹木の幹表面の樹皮を食べたり、角で剥したりします。若齢木ほど、また針葉樹より、広葉樹の方が皮剥ぎされやすいと考えられています。

一つの指標だけで動物種を特定したり、利用頻度を推定できませんので、複数の指標から総合的に判断する必要があります。大きな視点で対象地周辺のシカ生息密度を把握し、小さな視点でどこをシカがよく利用しているか判断します。より正確にシカの利用頻度を把握するためには、センサーカメラなどの調査が有効です。

再造林地におけるシカ捕獲技術マニュアル

発行年月 2017年9月

編集·発行 徳島県立農林水産総合技術支援センター (執筆者 藤井栄·森一生*・八代田千鶴**)

*徳島県西部総合県民局,**森林総合研究所関西支所